

## 「モアイの魅力」 RAPA-Nui (イースター島)は遠かった (前編) XR YJ CE Y/JA3IVU 北井 十生

毎年、年初めに世界のあちこちに出かけバケーションスタイルで運用されているJA3AVO中出さんのグループから昨年4月に来年はイースター島に行くが来ないかとの話にすぐ手を上げました。メンバーはJA3AVO中出さん、JH3PBL中出さんXYL、JA3ARJ大串さん、JH3LSS宮川さん、J13DNN島武さんの6人。当初、JA3HJI西邑さんも行かれる予定でしたが仕事の都合上断念された。

まず、航空チケットの購入から始まりました。サンチャゴとイースター島間のLAN航空は旅のシーズンとなるため早めに予約ということですぐにネットで購入した。伊丹からサンチャゴまではどのルート、どの航空会社するかでいろいろと模索をした結果、AAとし、中出さんでチケットをまとめて購入していただいた。

次に、イースター島での運用許可です。日本の英文証明をもとにチリの連盟(RCCH)のご協力を得て、CE Y/日本のコールで許可となりました。もう一つXR YJという日本のクラブコールようなコールの運用許可もいただいた。

何度かの打ち合わせ(梅田での飲み会)を行い、各自の持ち物 配分を行い、なんとかオーバーチャージにならないように調整しました。しかし、LAN航空は荷物1つなのでどうしてもときは追加料金を払うこととした。

1月8日 伊丹14時20分の成田行きのため、12時半ころ全員集合し、再度、荷物の調整をした後チェックインカウンターへ、これで成田、ダラス経由でサンチャゴまでスルーとなった。伊丹発が10分ほど遅れ、無事離陸、10分ほど遅れて16時55分成田着、チケットは発券されているのにAAのカウンターへ行けどのことで再度成田のAAのカウンターへ、無事手続きを済ませ、出国へ 18時30分発AA60でダラスに15時ころ到着、Wでの入国と出国手続き Wに用がないのにこの手続きこまったものだ。おまけにESTAで14ドルもかかる。

ダラス発AA945でサンチャゴへということになっていたがこれまた、2時間遅れの23時45分となった。アナウンスがあった。乗客が何か券をもらっている。ミール券だ。私たちも並んで券をもらい、近くの店へ、ハンバーガーとコーヒーを注文したら日本の3倍ほどの大きなハンバーガーと一番小さいコーヒーを注文したのにまた倍ほどあった。ダラスを離陸してしばらくすると夕食が出た。さきほどのハンバーガーでお腹いっぱいだ。

12時間と12時間、まる1日飛行機に乗ってチリのサンチャゴに到着した。荷物は全部無事に着いていた。荷物をのせるカートがない。するとおじさんが寄ってきてカートに荷物をのせ入国手続きへ LAN航空のカウンターまでついてきてチップをよこせと、(20\$ 一同ブツブツ)。LAN航空で手続きをしたが追加料金は取られなかった。(200\$ を覚悟していたので一同ホットしてカウンターからすぐに退散)

ところが出発のゲートはころころ変わっていつになっても飛行機が入ってこない。ついに4時間遅れの手書きの表示(おいおいイースター島に到着する時間やないか)

またまた出ました。今度はLAN航空のミール券。これをもってまた、お店へ行きハンバーガーとコーヒーを注文。大きいサイズの3人分とコーヒーカップを6つにし、半分にして6人で食べた。これでも日本の一人分より多い。周りを見るとみなさん体格が良い。

大串さんが携帯電話のSIMを買おうしたら本体ごと買った方が安いのでこちらにした。この携帯電話があとで役に立つこととなる。やっと、ゲートが開き、イースター島行きに乗り込む。夕食が出てしばらくすると眠り込んでしまった。

1/10の01時半すぎ伊丹を離れて50時間、やっとイースター島に着いた。疲れた。荷物の出口は1か所、全部の荷物が無事到着。

到着口に宿の「Here Kapone」の川口さんが出迎えて車に乗って宿へ。ところが宿の前の道路は水道工事中で掘り返して車が入れず手で運ぶ。本来なら21時半に到着して簡単なアンテナを立てて第1声を出す予定だったが荷ほどきだけで明日の朝から立てることでみなさん就寝した。



50時間かかってイースター島に到着

この「Here Kapone」は日本人専用の宿で部屋はキッチン、シャワー室とトイレ、ベッドルーム2部屋(1部屋 4人)であり、食事は3食ともなしで自炊するか外に食べに行くかである。

私たちは持つ込み可能な食材を日本から持ち込み(包丁、調味料、麺類、急須、箸など)、毎日、近くのスーパーや朝市に出かけ調達した。(もちろんチリワインと地ビールも)調理人は大串さんをメインに、中出さんXYLがサブに。あとの4人は食べる方に専念した。

1月11日、07時半夜明けとともに敷地と木立を見て検討した結果、HEXを広い場所に立てことにした。最初にXTやA5での経験からHEX-5を1時間ほどで立てた。その後、21MHz用デルタループ、HF用コブラアンテナを立てた。

第一シャック(CWとSSB)をリビングに、第二シャック(デジタルとCW)を外の物干し場に決めた。21MHzのCWとPSKからXR YJの運用が開始された。早速、猛パイルを受けた。

使用リグはTS480HX 3台 IC7000 1台 アンテナはHEX-5(20m~6m)、コブラ(80m~10m)、デルタループ(17m, 15m, 12m, 6m) ダイポール(40m, 80m, 160m) リニアアンプ(160m~15m Max500W CWとSSBで使用) その他 LWなど。

中出さんと北井が運用する間に、島武さんと宮川さんがまず6mのデルタループを立て、CWでCQマシンを使い、ビーコンと称して送信中、かってロードハウでは呼ばれていることに気がつかずみなさんに迷惑をかけたので北井がデジタルを運用しながらワッチすることにした。が何も入感せず。その後、160mか80mかどちらにするか相談して、160mのアンテナを立てることになったが敷地内は木立が多くなかなかうまく張れない。そこへ大串さんが加わり ひもに重りをつけてアンテナ線を張るが何せ長い。ついに隣地を超えて張った。一応、隣人には承諾を得たですが別の隣人からスペイン語で何か叱られることになる。



HEX-5 (20m - 6m)



第1シャック(CWとSSB)

TS480HX+リアアンプ° HEX コブラ(80m~10m) 7(DP)  
OP.JA3AVO JH3LSS J13DNN JH3PBL JA3ARJ



第2シャック(CWとSSBとデジタル)

TS480HX デルタループ(15m) HEX 7(DP) デジタル  
OP.JA3IVU  
TS480HX DP(40m, 80m, 160m)、LW CWとSSB  
OP.JH3LSS J13DNN  
IC7000 デルタループ(6m) CW (CQビーコン)

食事風景



夜になると宮川さんと島武さんが交代で160mでCQを出すのがなかなか応答がない。それでもW方面の何局かとQSOできた。ついでに40mDPと80mDPのアンテナを張ることに40mは屋根より低く、電灯線に平行に張ってしまった。ノイズを受けるかと心配したがそれほどでもなく、高さの割には良く飛んだ。

80mはこれらのアンテナを避けて縫うようにジグザクDPになってしまったがこれもそこそこ飛んだ。やはり同時に運用すると干渉を受けるのでバンドとモードを変えながら運用した。運用しない人は食材の買い出し、みやげの品定めと交代で歩いて10分ほどの町(村)の中心へ出かけた。夕方にはサンセットとモアイを歩いて出かけた。

本格的な観光は1月13日のまる一日と14日にご来光に出かけた。(後篇に続く)



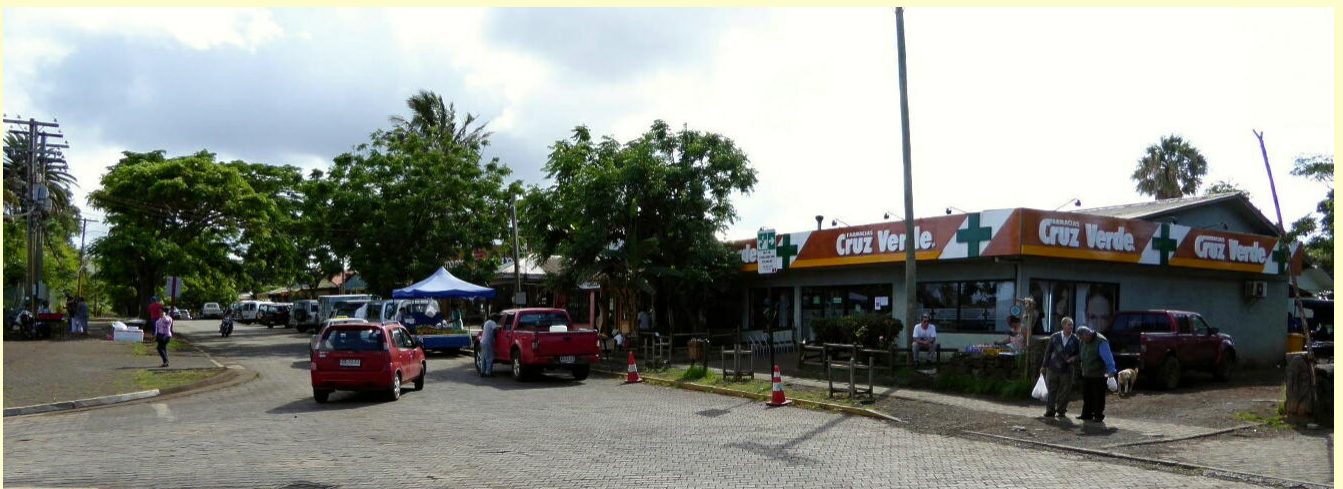
夕陽のモアイ像(本物にあらず)



こちらは本物のモアイ像



アフ・トンガリ井の前で



イースタ島 ハンガロア村の中心